



よこはま



HP : <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



横浜第2合同庁舎
(南関東防衛局本局)



横浜地方合同庁舎
(調達部装備課)

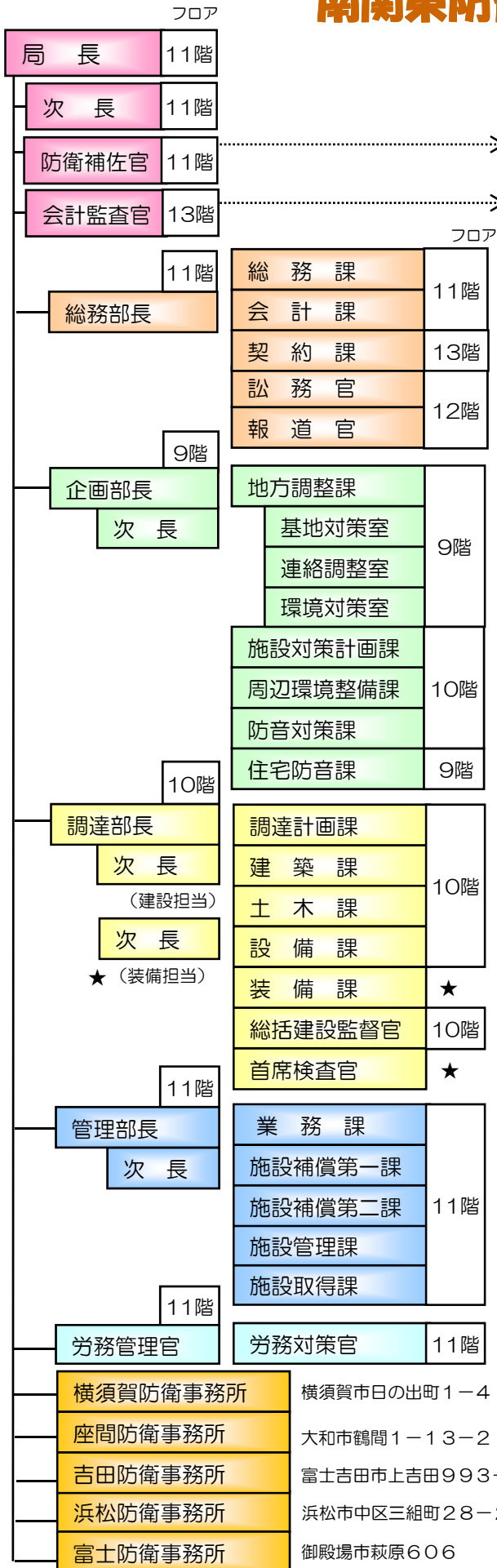
南関東防衛局の シンボルマーク



このシンボルマークは、南関東防衛局を広くアピールすると共に職員の一体感を醸成していくことを目的とし制定したものです。デザインの基本コンセプトは、旧横浜防衛施設局シンボルマークと同様、「みなと横浜」をイメージした紺碧の空と海のマリブルーを基調に、中央には管内に所在する名峰「富士山」を配し、舵輪の5本の握り手は、本局を支える5防衛事務所を表したものです。

南関東防衛局組織

横浜第2合同庁舎（横浜市中区北仲通5-57）



➤ 部隊運用等の見地から自衛官が局長を補佐

➤ 南関東防衛局の所掌事務に係る会計監査

➤ 南関東防衛局の総合調整、職員の人事、職員の福利厚生等
 ➤ 決算及び会計、物品管理
 ➤ 建設工事等の入札及び契約
 ➤ 争訟に関すること
 ➤ 広報並びに情報の収集、整理及び伝達

➤ 利害関係人又は関係行政機関との連絡及び交渉並びに意見の調整
 ➤ 地方公共団体及び地域住民の理解及び協力の確保に関すること
 ➤ 周辺環境整備課及び防音対策課の所掌する事務に関する計画及び実施についての調整
 ➤ 障害防止工事、民生安定施設の助成及び特定防衛施設周辺整備調整交付金の交付
 ➤ 学校等の防音工事の助成及び移転補償
 ➤ 住宅防音工事の助成

➤ 建設工事の実施計画の作成及び調整
 ➤ 建設工事の基準、設計、積算、施工の促進、監督及び検査
 ➤ 調達品及び役務に係る原価監査、監督及び検査

➤ 駐留軍のための物品及び役務の調達、日米地位協定第18条の規定に基づく損害賠償の処理
 ➤ 漁船の操業制限及び禁止並びにこれに伴う損失補償
 ➤ 防衛施設の使用による権利利益に生じた損失補償
 ➤ 自衛隊の行政財産の管理、在日米軍への施設の引き渡し、防衛施設の権利者への返還
 ➤ 防衛施設の借上、取得及びこれに伴う必要な措置

➤ 駐留軍労働者の雇用、労務管理、福利厚生

➤ 関係機関との連絡調整及び資料収集

★ 横浜地方合同庁舎6F（横浜市中区山下町37-9）

各部の主な業務内容

南関東防衛局は、

防衛省の地方における防衛行政の拠点としての役割を果たせるよう、各部相互に連携し、地域の皆さんとの関係がさらに強化されるよう努めているところであります。

- ・ 防衛省の施策を地元丁寧に説明
- ・ 防衛施設の整備に伴う各種の地元との調整
- ・ 米軍再編に関連した地元への説明
- ・ 部隊の新改編に伴う地元との調整

総務部

局内の総合調整、会計処理、情報公開・行政相談窓口、当局が発注する工事等の入札及び契約などを行っております。

企画部

防衛省の施策の実施、防衛施設の運用（使用協定の更新、防衛施設の設置・返還、米軍訓練の分散・実施など）に伴う地元調整や基地周辺対策（河川整備、住宅防音事業など）を行っております。

調達部

当局が発注する建設工事（契約事務は除く）などの実施や装備品等の調達に伴う原価監査、監督、検査などを行っております。

管理部

防衛施設の設置・運用などに伴い生じる損失補償、土地等の取得・管理・返還などに係る事務及び日本に駐留するアメリカ合衆国軍隊の構成員等の行為による被害への対応などを行っております。

管轄区域 神奈川県、山梨県及び静岡県の3県

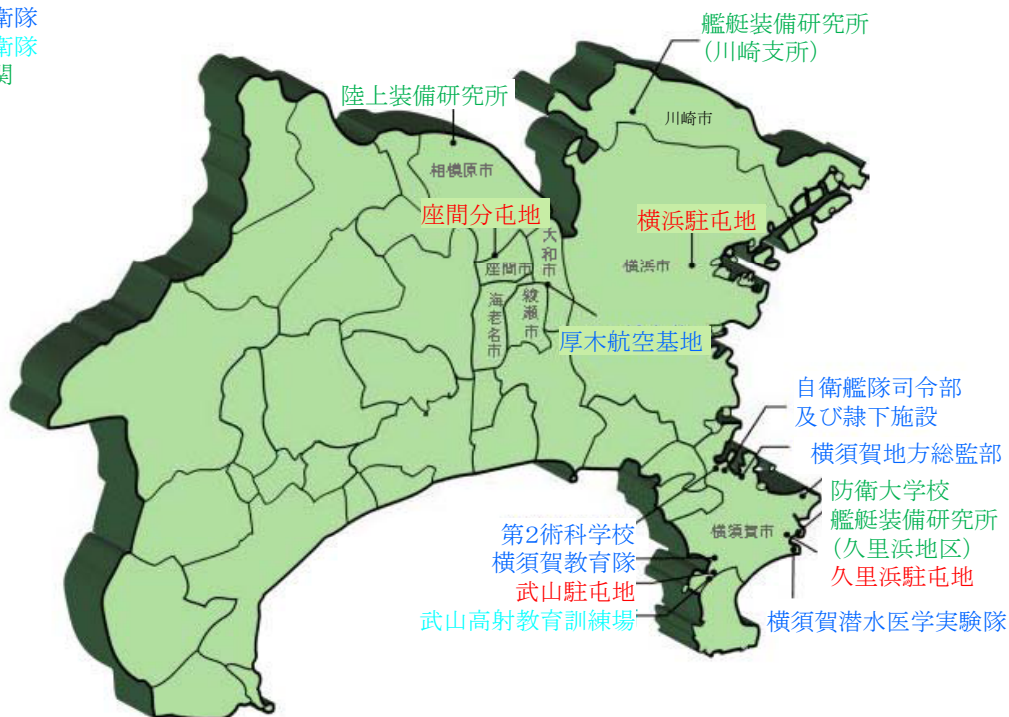
名称	所在地	管轄区域
南関東防衛局	横浜市	横浜市、川崎市、藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、小田原市、足柄下郡
横須賀防衛事務所	横須賀市	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡 横浜市(瀬谷区及び旭区を除く)[労務管理]
座間防衛事務所	大和市	大和市、綾瀬市、海老名市、座間市、相模原市、厚木市、伊勢原市、秦野市、南足柄市、高座郡、中郡、足柄上郡、愛甲郡、津久井郡、横浜市瀬谷区及び旭区[労務管理]
吉田防衛事務所	富士吉田市	山梨県
浜松防衛事務所	浜松市	静岡県(富士防衛事務所の管轄区域を除く。)
富士防衛事務所	御殿場市	沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、賀茂郡、田方郡、駿東郡、富士郡

管内に所在する主な防衛施設

区分	県別	防衛施設名	
自衛隊 252施設 147.10km ²	神奈川	陸 自	横浜駐屯地 久里浜駐屯地 武山駐屯地 ほか
		海 自	横須賀地方総監部 厚木航空基地 ほか
		空 自	武山高射教育訓練場
		附 属	防衛大学校 陸上装備研究所 艦艇装備研究所
	山 梨	陸 自	北富士演習場 北富士駐屯地
	静 岡	陸 自	東富士演習場 富士駐屯地 滝ヶ原駐屯地 駒門駐屯地 板妻駐屯地
		空 自	浜松基地 静浜基地 御前崎分屯基地
在日米軍 19施設 19.44k m ² (うち3施設は 2-4-(b))	神奈川	陸 軍	横浜ノースドック キャンプ座間 相模総合補給廠 相模原住宅地区
		海 軍	根岸住宅地区 富岡倉庫地区 厚木海軍飛行場 池子住宅地区及び海軍補助施設 吾妻倉庫地区 上瀬谷通信施設 深谷通信所 横須賀海軍施設 浦郷倉庫地区 鶴見貯油施設
		その他	長坂小銃射撃場(2-4-(b))
	山 梨	その他	富士演習場
	静 岡 (一部山梨)	海兵隊	富士営舎地区 沼津海浜訓練場
		その他	富士演習場(2-4-(b)) 滝ヶ原駐屯地(2-4-(b))

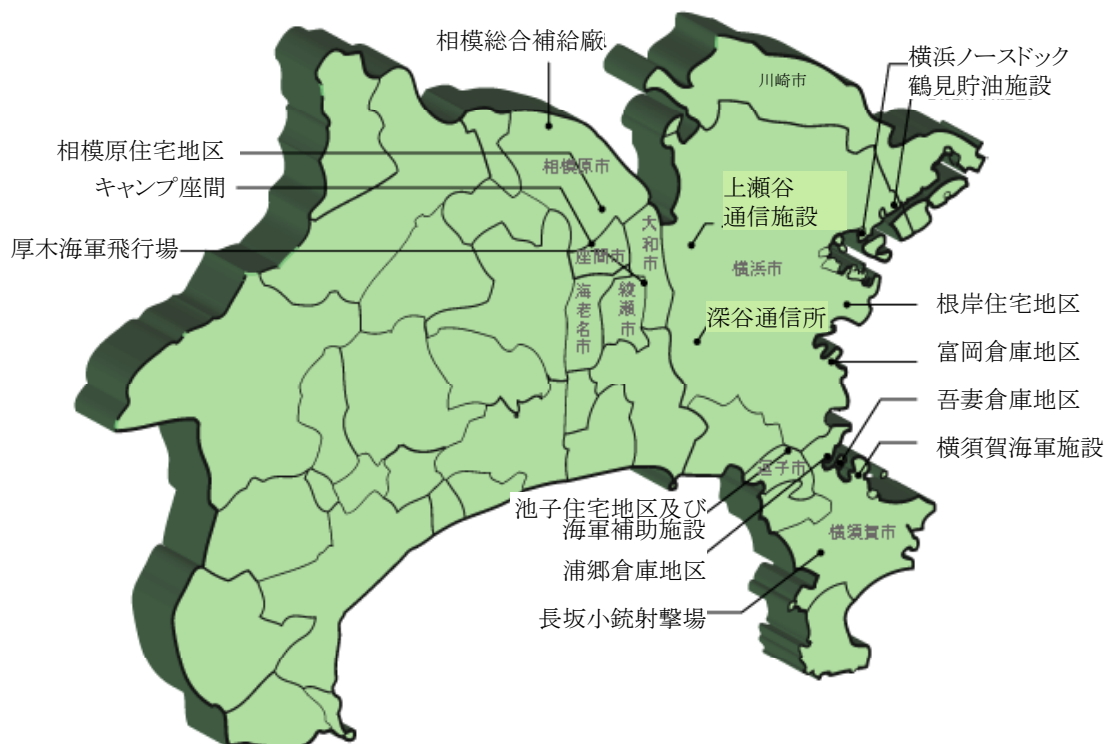
神奈川県内自衛隊施設

陸上自衛隊
海上自衛隊
航空自衛隊
附属機関



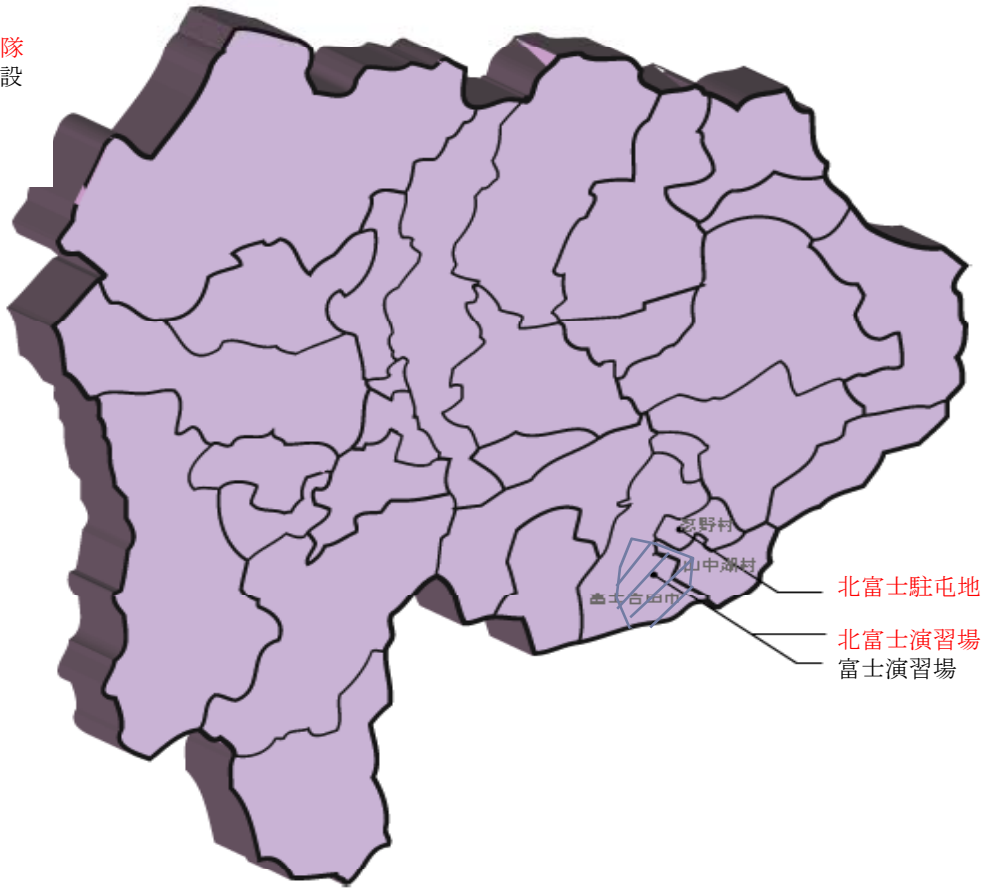
神奈川県内駐留軍施設

駐留軍施設



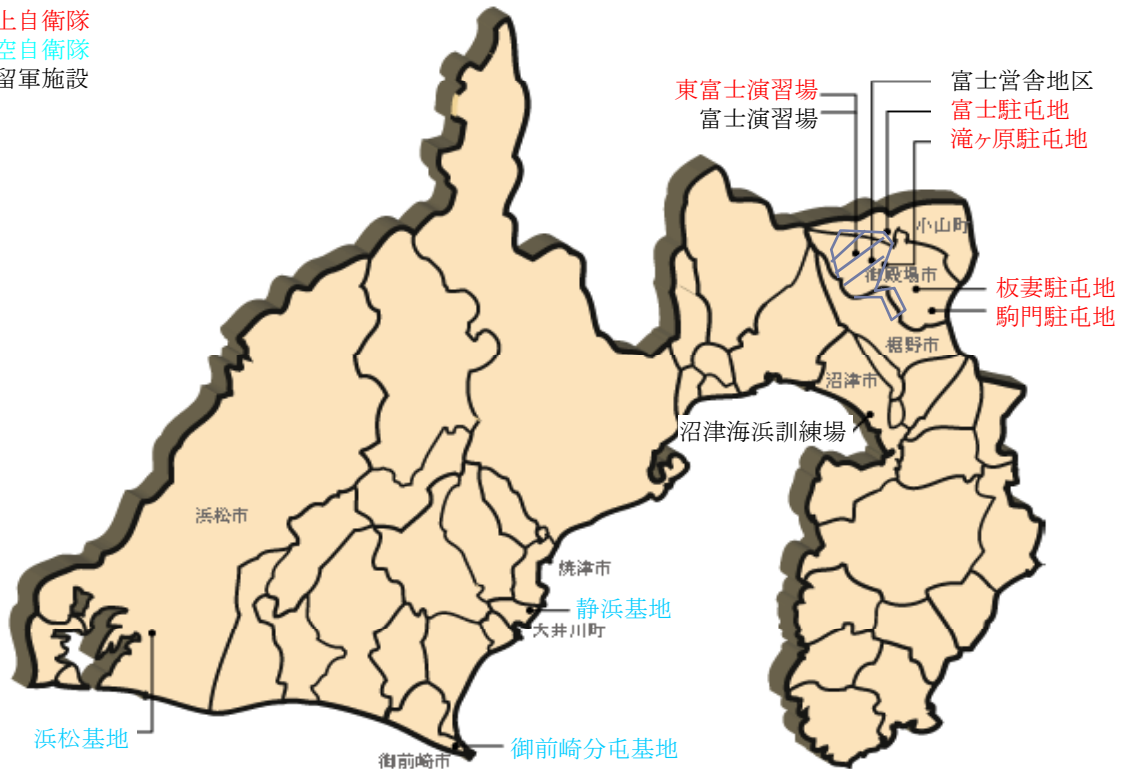
山梨県内(自衛隊・駐留軍施設)

陸上自衛隊
駐留軍施設



静岡県内(自衛隊・駐留軍施設)

陸上自衛隊
航空自衛隊
駐留軍施設



施設対策計画課の業務

再編交付金について

施設対策計画課では、平成19年度より「駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法」第6条に基づき、再編交付金を交付して市町村が実施する再編関連特別事業に対して助成を行っています。

再編交付金で実施できる事業については、「住民に対する広報・国民保護のための措置・防災・住民生活の安全の向上・情報通信の高度化・教育、スポーツ及び文化の振興・福祉の増進及び医療の確保・環境衛生の向上・交通の発達及び改善・公園及び緑地の整備に関する事業」等、多岐にわたって助成することとなっています。

ここでは20年度に横須賀市が「教育、スポーツ及び文化の振興に関する事業」として実施する国際コミュニケーション能力育成事業について紹介します。

この事業については、英語を母語とする人をALT（外国語指導助手 = Assistant Language Teacher）として採用し、横須賀市立の小・中学校、高等学校、ろう学校、養護学校等の全校に派遣することで、英語の授業だけでなく、様々な教育活動にも参加してもらい、児童・生徒が生きた英語に触れる機会を拡充して、グローバル化が進む中、豊かな人間性と国際コミュニケーション能力を備えた魅力ある人材を育成することを目的としています。

【事業内容等】

- ・事業名：横須賀海軍施設関連再編関連特別事業(教育、スポーツ及び文化の振興に関する事業：国際コミュニケーション能力育成事業)
- ・補助事業者：横須賀市
- ・事業費：約1億8千万円
- ・交付額：約1億7千万円
- ・事業実施：市立の小・中学校・高等学校、ろう学校、養護学校等72か所

新組織の紹介

防衛補佐官 富田 清浩 (昭和35年生)

平18. 3. 27 海上幕僚監部施設課基地対策班長
平20. 4. 1 現職
南関東防衛局防衛補佐官



4月1日付けで初代防衛補佐官を拝命しました富田と申します。紙面をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

防衛補佐官の任務は、「局長の命を受けて、自衛隊の部隊及び機関、地方公共団体、条約に基づいて日本国にある外国軍隊その他の関係機関との連絡及び協力に関する重要事項についての企画及び立案に参画し、並びに地方防衛局の事務に関し、部隊運用の見地から助言を行う」こととされています。言い換えれば、災害派遣等の自衛隊法に規定される自衛隊の各種行動を円滑に行うため、また、在日米軍との連携を円滑に行うために自治体・住民の皆さんの理解と協力を確保する業務に制服の立場で参加するということになります。

南関東防衛局管内には、日米の枢要な部隊が所在しており、このため多くの緊要かつ枢要なミッションを抱えております。「やるべきでないことをやる」、「やるべきことをやらない」を排し、ミッション遂行に貢献すべく取り組む所存でありますことを申し上げ、挨拶とさせていただきます。

新幹部の紹介

管理部長 瀬尾 勝成 (昭和27年生)

平19. 9. 1 地方協力局地方協力企画課
周辺対策計画室長
平20. 4. 1 現職
南関東防衛局管理部長



初めての横浜勤務ですが、本省・庁で横浜担当の経験もあり、懐かしさを感じております。赴任直後の挨拶回りや毎年度の定例の業務等もあり、瞬く間に約二ヶ月が過ぎてしまいました。赤レンガ倉庫など横浜開港以来の建築物の散策を楽しみにしていたのですが、通勤時間が長いこともあって、なかなかお昼の散歩の時間がもてません。また、静岡、山梨県も管轄であり数度伺いましたが、日頃の行いのせい(？)すばらしい雲一つない富士山の雄姿を目の当たりにすることができました。

さて、仕事のことで、管理部長は米軍の事件・事故に伴う損害賠償業務や、自衛隊、米軍施設の取得、補償、管理という目立たない防衛施設の維持の根幹をなす重要な地味な業務を担当しておりますが、防衛局の役割を十分肝に銘じて全力で取り組んで参りたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

入省しての抱負

企画部地方調整課 中村 早希

配属された当初は課の方々や忙しそうに仕事をされている中、私一人何も出来ずに戸惑う毎日でしたが、現在は少しずつ仕事を覚え、理解するのに奮闘する日々を過ごしています。私は生まれも育ちも沖縄で、幼い頃から米軍基地がすぐそばにある生活を送ってきました。防衛省の職員になった今、改めてその仕事に果たす役割の大きさを実感し、住民の方々の気持ちに配慮した行政運営ができるような事務官になりたいという思いが強くなりました。

今はまだまだ半人前以下の私ですが、耳をダンボにして
(先輩からのアドバイスです) 周りの方々がされていることをよく観察しながら、日々勉強していきたくと思いますのでどうぞよろしくお願ひします。



企画部施設対策計画課 奥村 哲也

私が防衛省を志望した理由は、災害復旧活動をする自衛官に感動し、自分も何か力になりたいと思ったからです。入省して約2か月がたち、全てが新鮮で、学ぶことばかりです。

特に、日々の業務で感じたのは、自衛隊が活動するためには、周辺地域の方々の協力が不可欠であるということ、また、防衛施設が在ることにより、周辺地域への様々な対策を行っているということ。現場で勤務する自衛官の方々は、事務的なサポートだけでは、活動することはできないと強く感じました。先日、研修で自衛隊の体験入隊があり、自衛官から「俺たちは命をかけているんだ」とおっしゃっていた熱い眼差しは忘れられません。私も防衛省職員として、この自衛官のよう、自分の仕事に誇りを持ち、防衛省・自衛隊の中だけではない広い視野をもって仕事をしていきたいです。



先輩たちよ一言

管理部業務課 浅井 義信

入省後数ヶ月経ちますが、仕事は慣れましたか。私は、業務課で事故補償に関する業務を担当し今年で2年目となりますが、被害者救済のため一生懸命頑張っています。

皆さんを見てみると、緊張感いっぱいなの昨年自分を思い出します。まだまだ未熟な私ですが、良き先輩として悩み事は公私問わずなんなりと！
(写真左が浅井さん、右は今年入省した南さん)

総務部総務課 赤迫 雅行

初任者研修の受講お疲れ様でした。防衛事務官・技官として入省した皆さんにとって体験入隊を含め大変貴重な経験が出来た事と思います。総務部、企画部、調達部、管理部、事務所と所属は各自異なりますが、同期生で協力し合って頑張ってください。



北富士演習場

第八次使用協定締結

平成二十年三月二十七日、市ヶ谷の防衛省において、北富士演習場使用協定の調印式が行われました。

調印式は、国側を代表して石破防衛大臣、また、地元側を代表として横内山梨県知事、土屋北富士演習場対策協議会会長、堀内富士吉田市長、高村山中湖村長、天野忍野村長、栗原富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合長等の出席のもと、円満に滞りなく北富士演習場使用協定が締結され、本年四月一日から向こう五年間の本演習場の使用が確保されました。

本演習場は、旧陸軍により開設され、終戦とともに米軍に接収され、以降米軍の演習場として使用されてきましたが、昭和四十八年四月に米軍から自衛隊が管理する演習場へ使用転換が行われ、米軍には地位協定第二条四項（b）の適用のある施設及び区域（自衛隊管理で米軍が一時的に使用）として提供され、現在に至っています。

この使用転換にあわせて、第一次使用協定が締結され、以降五年毎に更新を行い、今回

で七回目の更新となりました。

また、本使用協定の締結に先立ち三月二十二日、北富士演習場内国有入会地の使用に関する協定の調印式が山中湖村内において行われ、石破防衛大臣と栗原富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合長との間で締結されました。

この協定は、北富士演習場の国有入会地を自衛隊が演習に使用することと地元関係入会住民が入会のため使用することについて、地元と国との利害関係を調整し、相互の便宜を図ることを目的とするものであり、昭和六十三年に第一次入会協定が締結され、使用協定同様に五年毎に更新を行い、今回で四回目の更新となりました。

今回、使用協定等の更新に当たっては、防衛省へ移行して初の使用協定等の更新であり、本年一月十七日に地引防衛省地方協力局長から横内山梨県知事等に対し協定更新の申し入れを行い、その後、地元側から各般にわたる要望が出され、その解決を図るため議論に議論を重ね、本協定の締結に至ったのであります。

なお、今回の使用協定等の締結にあたり、ご尽力いただいた地元関係者の皆様に謝意を

申し上げるとともに、当省としても今後とも信頼関係を維持し、地元の周辺地域の発展と本演習場の安定的使用の両立を図るべく努力してまいります。

地元側



国側



風物詩

北富士演習場の火入れ

富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合と旧一ヶ村入会組合が、4月13日、北富士演習場内国有入会地で恒例の火入れが行われました。本行事は地元入会住民が旧来から有する入会慣習に基づき、森林法の趣旨に則り、害虫の駆除、林野特産物の育成等を目的として実施されています。

火入れは、富士吉田入会組合連合会及び新屋入会組合、山中湖村旧三村入会組合連合会、忍草入会組合の各組員等約三千八百名が参加して執り行われました。参加者は吉田地区、山中地区、忍草地区の三会場に分かれて火入れ式を行った後、午前9時の花火を合図に各地区一斉に枯れ草に点火しました。当日は曇天ではあったが降雨はなく実施の運びとなったが、前夜の雨のため枯れ草が湿っているようであり延焼しにくい所も見受けられました。しかし、演習場内の国有地約千九百畝の各所で煙が立ち上り、富士のすそ野を次々と焦がし、入会行為としての今年の火入れは無事終了しました。

東富士演習場の野焼き

今年も御殿場地方では春を告げる風物詩としての「野焼き」が、3月16日、東富士演習場で快晴のもと行われました。この「野焼き」は、例年2月から3月の間に行われており、その目的は、入会地原野を焼き払うことにより草地の状態を維持すると共に、野焼きで生じた灰が新たに出る若草等のための肥料となることから行われているものです。また、本演習場内で発生する毒蛾・ツツガムシ等の害虫の駆除、演習等による野火の発生防止を図るためにも行っているものであります。

この「野焼き」には、毎年、入会組合関係者や消防団等約400人と山林等の類焼防止の作業及び消化活動に協力するため、陸上自衛隊員約700人、延べ約1100人が参加して行われました。

「野焼き」当日は、朝6時に3発の花火と地元有線放送で実施が告げられ、参加した関係者たちは、午前9時20分頃広大な原野に散らばり、安全を確認しながら入会組合関係者が背丈ほどに伸びた茅に火を付

けていきました。今回は、数日前の降雨の影響が懸念されましたが、地元の人の思いが通じたのか、日が昇ると共に気温が上がり、時より西風が強く吹いたこともあって、炎は豪快に音を立てながら、富士山の麓一面に燃え広がり、本入会原野の殆どの枯れ草を焼き尽くしていき、炎の先には真っ白な雪を頂いた富士山が浮かんで見え、それこそ絵に描いたような光景でありました。一方、燃えさかる炎に追われ逃げ迷う野ウサギの姿もあちこち見られました。

このような情景を関係者が見守る中、「野焼き」は無事終了しました。

投稿

「市制50周年を迎えるにあたって」

都心から40km圏内、神奈川県ほぼ中央に位置し、面積は約27平方キロメートルの大和市には、3つの鉄道が東西南北に走り、市内には8つの駅があります。また、国道16号線、246号線および467号線のほか県道4線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。昭和34年に県下14番目の市として3万5千人余で市制を施行して以来、本市の人口は年々増加し、現在は約22万人を擁します。本市では、市民一人ひとりが日々の生活を幸せに送ることができるまち、「住んでいて良かったと思える大和市」を目指し、健康を基軸としたまちづくりを進めています。平成21年2月1日に市制50周年を迎えるにあたり、心身の健康はもとより、子どもが健やかに育つまち、高齢者が活き活きと地域の活動に参加できるまちなど、様々な視点から健康を捉え、地方自治の究極の目標である地域住民の福祉の実現を目指しています。

この大和市の50年間の歩みの中で常にあった厚木基地。とりわけ、およそ35年前に空母ミッドウェーが横須賀に入港して以来、航空機騒音はさらに深刻な問題となり、長きにわたり市民生活は大きな被害を受けています。市民からは、騒音被害の軽減や抜本的な解消を求める声、飛行がいつまで続くのかなど情報提供や説明を求める声、住宅防音工事の拡充を求める声など様々あり、さらに在日米軍再編で示された空母艦載機の厚木基地からの移駐について市民の関心はたいへん高いものがあります。これら厚木基地の所在に起因する問題、そして、その対応をめぐっては、従来から南関東防衛局より多岐にわたって施策がなされているところではあります。基地のある生活を送っている大和市の住民のこれまで、そしてこれから思いをいたらせ、その思いを反映した、なお一層のきめの細かい取り組みを期待しております。

神奈川県大和市渉外室

基地対策課基地対策担当

第8次使用協定に思う

平成19年3月末演習場対策室勤務の内示を受けた。一事務員として第2次使用協定締結時に居合わせ先輩方の仕事ぶりに感銘を受けてからの想いがなかつた瞬間ではあったが、第8次使用協定における土台づくりが行えるのか嬉しさと不安が入り混じったのも確かであった。

先輩方が成し遂げてきた7次までの使用協定が、富士北麓の歴史の一頁に確りと記録され、その基本理念は第8次においても引き継ぐべきであり、後世に綿々と引き継がれべきものであるとの考えの基、部員一同8次に向けての事務作業に入った。

後半に入って諸問題が降っては湧く状況も続きはしたが、地元協での調整をはじめ国の前向きな対応により解決でき、第8次使用協定の締結に至った。第7次までの先輩方の理念をすべて継承したか、疑問ではあったが第9次に向けての目出しも含めて自分の思いを載せるに至ったこの一年が本当に短く感じたのは私だけだったのだろうか。

前富士吉田市演習場対策室 小俣光吉

キティホーク離日

米海軍横須賀基地を事実上の母港としてきた空母キティホーク（全長323m・満載排水量約82,000トン）が、5月28日午前、10年間に及んだ日本での任務を終え、大勢の関係者に見送られながら同基地を出港し米本国に向かいました。

同艦の後継艦であるジョージ・ワシントンとの任務交代は、米本土において行われ、来年には退役する予定となっています。

同艦は1961年4月に就役し、米海軍の現役空母の中では最古参で、唯一、油を燃料とする通常型であり、横須賀基地には1998年8月、ミッドウェー、インディペンデンスに続く3隻目の空母です。

離日式典では、駐日米大使が「さようならキティホーク」等と別れの言葉を述べられ空母を見送りました。

他方、甲板上では乗組員により「SAYONARA」と人文字を作って別れを惜しんでいるようでした。



在日米海軍横須賀基地HPより



登舷礼で応える乗員！

南関東防衛局ホームページ

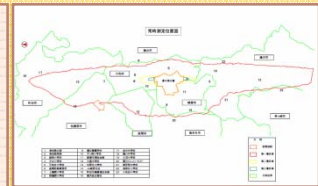


- ・ 組織紹介
- ・ 防衛施設の紹介
- ・ 住宅防音
- ・ 建設工事などを
お知らせしております。
— 随時更新中!! —

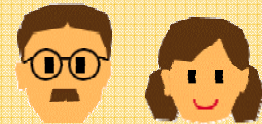
南関東防衛局 入札・契約情報

(建設工事及び測量・建設コンサルト業務等関係)

- 平成20年度発注予定工事
平成20年 6月16日 情報
- 入札公告等 (お知らせする情報があります) **NEW**
- 入札結果等
平成19年度
工事
工事
平成20年度
工事
工事
- 署名停止措置の概要
- リンク
- 国庫子一歩の取扱いに関する留意事項 **NEW**
- 安全保障に係る設計図書等の管理業務について



厚木基地周辺
騒音測定位置図



入札・契約情報

HP : <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>

南関東防衛局

〒231-0003

横浜市中区北仲通 5 - 5 7

横浜第二合同庁舎

TEL (045) 211-7129



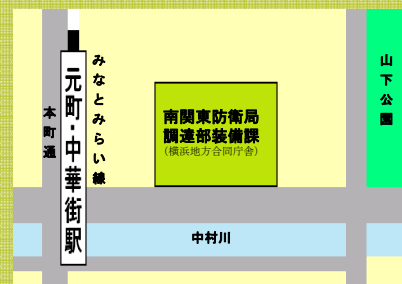
南関東防衛局調達部装備課

〒231-0023

横浜市中区山下町 3 7 - 9

横浜地方合同庁舎

TEL (045) 641-4741



編集企画：南関東防衛局
 広報紙「よこはま」編集委員会
 発行：南関東防衛局総務部報道室
 045-211-7129